

## グリーン・デジタル産業の人材育成へ 長崎総科大が26社と教育協議会

新学部の方針を説明し、今後の進め方などを協議した  
初会合  
長崎市、長崎総合科学大



デジタルや人工知能(AI)、脱炭素といった成長分野の人材育成を産学連携で進めようと、長崎総合科学大は24日、長崎市網場町の同大を主会場にオンラインでグリーン・デジタル産業分野教育協議会の初会合を開いた。ITや半導体など幅広い分野の県内外26社が参加しており、来年6月をめどに教育カリキュラム案の策定を目指す。

同大は、再生可能エネルギーなどグリーンとデジタル両分野にまたがる、先端グリーン・デジタル理工学部(仮称)の新設を2027年に計画。同協議会は企業のニーズに応じたカリキュラムの策定や実践的な教育プログラムの開発を進める狙い。参加企業との共同研究や人的交流も推進する。

初会合では、黒川不二雄学長が「グリーンとデジタルが融合した新しい分野は長崎、日本、世界の発展にも重要。皆さんの力を借り、人材育成の新たなモデルとなるよう頑張りたい」とあいさつ。大学受験時にエネルギー系など3年次からの主専攻プログラムを選んで受験してもらうといった新学部の方針を説明した。

出席者からは「グリーンとデジタル、企業によって強みが異なる。分けて協議するのはどうか」という提案があり、大学側は部会の設置を検討する考えを示した。

(黒川裕之)